

## 2022 年版

### ESG投資/上場・私募インフラファンド市場の動向調査

アंकパートナーズ（同）では、金融サービス産業を中心に市場研究を行ない情報発信やマーケティング資料を発刊している市場調査・コンサルティング機関です。この度、上場インフラ投資法人、私募インフラファンドの運用会社における成長戦略や各施策、取組みを調査し、インフラファンド業界の動向を把握し、「2022 年版 ESG 投資/上場・私募インフラファンド市場の実態と展望」を発刊した。

#### ■発刊の狙い

2050 年カーボンニュートラルという国際的な目標達成を背景に、インフラファンドは「再生可能エネルギー発電設備」に投資するファンドであることから ESG 投資の側面でも注目度が高く、また、経済動向等の影響を受けにくい安定的なアセットクラスへの投資として、資産運用の多様化の観点などからも投資者からの関心は高まりつつある。

しかしながら、私募インフラファンドについては、その実態は明らかになっておらず、新たな投資機会の創出の一助とすべく、上場インフラファンドと共に参入各社の戦略や取組みを把握し業界の全体像と動向を明らかにし、将来展望と課題を考察した。

#### ■掲載内容

業界各社と金融機関へのヒアリング、公開情報を基に以下の定量・定性情報を掲載。

※ヒアリング企業は、上場インフラファンドが 3社（タカラレーベン・インフラ投資法人、カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人、ジャパン・インフラ投資法人）、私募インフラファンドが 1社（ジャパンインベストメントアドバイザー）、金融機関が数社（銀行名非公開）。

○法整備の進展、各社の動きなどをまとめた主要業界動向（定性情報と年表）

○業界の将来展望と課題

○参入企業数、上場・私募の年間出資金額

○上場・私募別の出資金残高、資産規模推移、組成ファンド数推移

○各社の取組み（参入経緯、ファンドの特徴、パイプラインの拡充策、ポートフォリオの現状と今後の施策の着眼点、スポンサー戦略、資金調達策、他社との差別化策、他）

○上場インフラファンド 7 社の比較分析、他

※ヒアリング協力企業が少ないため、参考値に留める項目もある。

■本マーケットニュースは、市場規模や動向の情報発信が目的であり、投資や出資その他の行動、特定商品や金融商品等への勧誘や推奨をするものではありません■

## 2022 年版

### ESG投資/上場・私募インフラファンド市場の実態と展望

価格（税込み）	【PDF 版】165,000 円（本体価格：150,000 円）	
発行日、体裁	2022 年 4 月 11 日、A 4 判 156 ページ	
発行所	アंकパートナーズ合同会社	
ホームページアドレス	<a href="https://www.ankhpartners.com">https:// www.ankhpartners.com</a>	
お問い合わせ先	info@ankhpartners.com	( t e l ) 090-9158-3109

## ＝掲載内容のサマリー＝

### ■上場はスケールメリットを追求、私募は資産の多様化進む

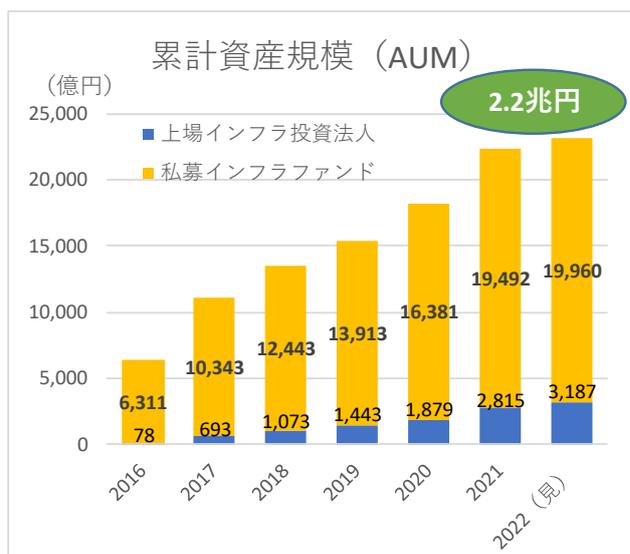
インフラファンド業界を概観すると主な動きとして、法規制が幾度となく見直され当業界の発展を支えてきた。

ただ、法整備は未だ途上段階であるが、上場インフラファンドはスケールメリットを追求し規模を拡大、パイプラインの確保と資金調達などの拡充を図るため新たなスポンサーとアライアンスを組む事例や脱太陽光を視野に入れ始める動きもある。また、ESG投資としての取組みを明確化、グリーンファイナンス評価の取得も進んでいる。しかしながら、太陽光発電では新規案件開発、既存発電所の取得に関して従前に比してコストが増加しつつあるとの声や、九州で起こっている出力制限が、早晚他の地方でも起こりうるのではないかと、といったインフラファンドの収益に直結する不安材料が顕在化している。私募インフラファンドは、太陽光比率が多いもののアセットクラスの多様化や、組成インフラファンドの大型化傾向も認められる。双方ともに規模の拡大が続いている。

### ■上場、私募共に拡大続き、2021年は出資金残高で8,721億円、資産規模で2.2兆円と推計

上場と私募のインフラファンドにおける、年間（1～12月）の出資金総額残高と資産規模を推計した。出資金総額残高は2021年が8,721億円（対前年比11.3%増）と推計した。2016年に急増し、以降右肩上がりでの拡大している。2016年に急増している背景には、アセットに組入れる太陽光発電所数の増加があると推察される。しかしながら、2018年の増加率が45.2%、2019年は18.4%、2020年は16.4%と、市場規模の拡大ペースには鈍化傾向が見られる。

累計資産規模は運用資産残高（AUM）で、上場インフラファンドは、2016年以降着実に資産額を増やし2021年には2,815億円まで拡大。私募インフラファンドは、2016年以降に急拡大しており、2021年は1.9兆円と推計した。上場と私募インフラファンド合算の市場規模は、2021年が2.2兆円（対前年比22.2%増）と推計した。2022年も出資金残高、資産規模共に拡大を見込む。



出所) 各社のホームページ、公表資料

アंकパートナーズ推計

※上場の出資金額は純額

## ■累計組成本数は少なくとも2021年末で112本と推計

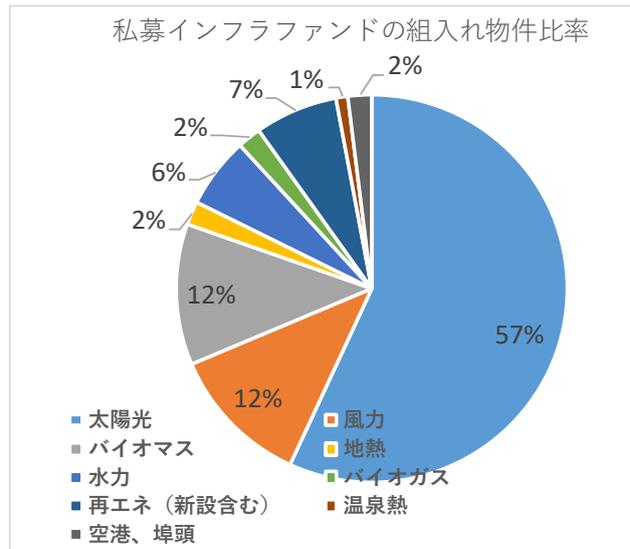
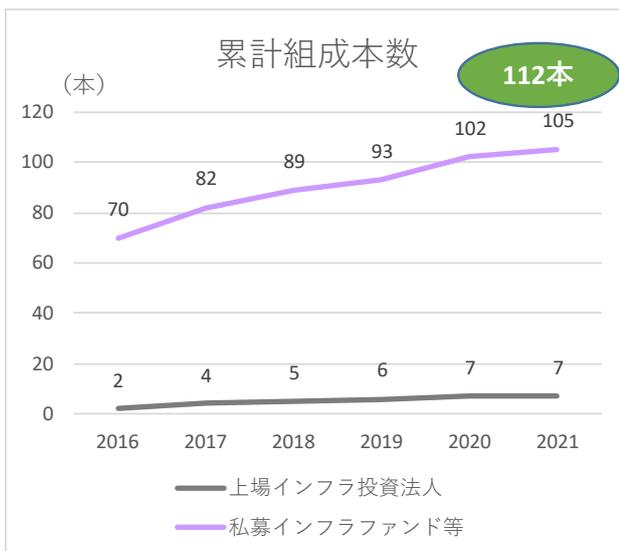
インフラファンド業界の組成本数は、組成された年が判明した上場と私募の年間組成本数から累計値として、2021年で112本と推計した（業界全体の数値とは言い難く留意が必要）。組成本数は増加基調にあるものの、2017年以降は年間の組成本数がやや鈍化傾向にある。この他、組成年が不明な国内向けインフラファンドが40本弱あり、少なくともこれまでに150本程度が組成されていると推計している。

## ■私募インフラファンドの6割弱が太陽光を組入れ、風力とバイオマスは1割超

私募インフラファンドにおいては、2015年から太陽光以外の組入れ資産を対象とする多様化や、総合型を標ぼうするファンドが組成され多様化が進んでいる。弊社では、組成年と組入れ資産（予定含む）が判明した79ファンドの組入れ資産別の構成比を算出した。

それによると、私募インフラファンドの6割弱が太陽光発電を組入れており、約1割ずつの私募インフラファンドが風力とバイオマスを組入れていることが分かった。それ以外は、水力、バイオガス、地熱、温泉熱、空港・埠頭、包括的に再エネとするものを組入れていることが分かった。

こうした私募インフラファンドの動きが呼び水となり、上場インフラファンドでも多様化が進み、定着化していくことで投資商品としての魅力が更に高まることが期待されている。



出所) 各社のホームページ、公表資料 ※私募は判明分

アंकパートナーズ推計

## ■展望と課題

上場インフラファンドはJ-REITと比較してスロースタートではあるが、この6年間のCAGR（年平均成長率）は62.8%と高い成長率を示している。私募インフラファンドについても、出資金残高の積み上がりから、共に民間資本を取り込みインフラ市場における政策目標の一翼を担っていると見えよう。インフラファンド市場は成長性の高い市場であると言える。

また、景気に左右されにくく、債券や株式との分散投資にも適用しうる、安定投資に資する金融商品とも言えそうである。更なる市場発展のためには、上場においては新規上場、投資家の啓蒙活動と他社との差別化訴求など、私募においては地域活性化など特色あるファンドの組成、情報開示などがポイントとなると考える。

## = 掲載内容のもくじ =

### 第Ⅰ章 総論・展望編

1. インフラファンド業界の成り立ちと背景
2. 業界構造の把握
  - (1) 上場インフラファンドと私募インフラファンドの相違点
  - (2) 参入企業数
  - (3) 私募インフラファンドの出資金総額別の構成
  - (4) 上場インフラファンドのファンド総額（出資金）別の構成
3. インフラファンド業界の主な動向まとめ
  - (1) インフラファンドを取り巻く状況
  - (2) インフラ業界の変化と2030年度の政府の野心的な目標
4. 市場規模
  - (1) 出資金額と資産規模
  - (2) 組成本数
  - (3) クラウドファンディングによる再エネ事業への資金流入
5. 主な業界の動き
  - (1) アセットクラスの多様化模索
  - (2) アライアンスの進展、更なる成長へ
  - (3) ESGを意識した取組み広がる
6. 途上段階の法整備の状況
7. インフラファンド業界の将来展望
  - (1) 成長性
  - (2) 安定性
  - (3) まとめ
8. インフラファンド業界の課題

### 第Ⅱ章 各論・分析編

1. 収益性、今後の見込み
  2. 参入経緯、私募インフラファンドの上場意向
  3. インフラファンドの成長とパイプラインの拡充策
    - (1) ファンドの現状
    - (2) ファンドの特徴
    - (3) 成長戦略
  4. パイプライン管理・運営の特徴
    - (1) 取組み
    - (2) 特徴
    - (3) 課題と対策
  5. ポストFITについて
  6. ポートフォリオの現状と今後
    - (1) 現状
    - (2) 今後の方向性と着眼点
- ①組入れ数
  - ②国内・海外
  - ③アセットクラス
  - ④新規・稼働中

- (3) 施設エリアと着眼点
  - (4) 海外設備取得の現状と考え方
7. スポンサー戦略
    - (1) 現状
    - (2) 今後
  8. 資金調達戦略
    - (1) 投資家構成
    - (2) 主な投資家
    - (3) 開拓したい投資家
    - (4) 機関投資家の開拓策
    - (5) 個人投資家の開拓策、認知度向上策
    - (6) 海外投資家の開拓意向
  9. インフラファンドに関連するその他の事業戦略と課題
    - (1) 現状
    - (2) 課題と今後
  10. 他社との差別化策
  11. 上場インフラファンド7社の比較
    - (1) 投資法人を取り巻く企業群
    - (2) 参入年
    - (3) 資産規模と出資金残高の比較
    - (4) 投資口価格の比較
    - (5) 年間売買状況
    - (6) 売買高の比較
    - (7) 売買代金の比較
    - (8) 収益性の比較
    - (9) 分配金の比較
    - (10) 天候不順の収入減少リスク対応
    - (11) ポートフォリオの比較
    - (12) スポンサーのパイプライン状況
    - (13) 個人・外資系投資家構成の比較
    - (14) 格付け取得の状況
    - (15) グリーンファイナンス等の評価取得
    - (15) ESGの取組み、ESG投資機会への提供

### 第Ⅲ章 個表編

1. 取材協力インフラファンドの詳細個表
  - ①タカラレーベン・インフラ投資法人
  - ②カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人
  - ③ジャパン・インフラファンド投資法人
  - ④(株) ジャパンインベストメントアドバイザー
2. 取材協力以外の上場インフラファンドの簡易個表(4投資法人)
3. 主な私募インフラファンドの簡易個表(企業概要14社)